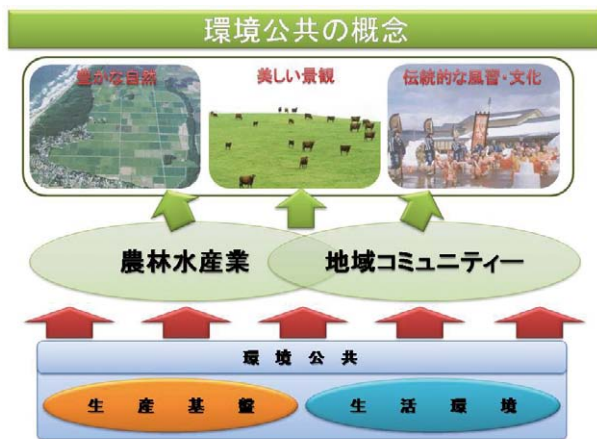


(1) あおもり環境公共推進基本方針

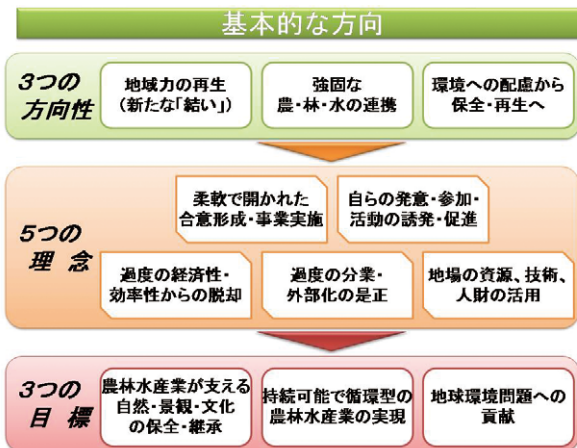
農山漁村では、自立した農林水産業が営まれ、地域コミュニティが存続することによって、豊かな自然や美しい景観、伝統的な風習や文化など、かけがえのない地域資源を将来に引き継いでいくことが可能となります。

このため、青森県では、“農林水産業を支えることは地域の環境を守ることにつながる”との観点から、農林水産業の生産基盤や農山漁村の生活環境などの整備を行う公共事業を「環境公共」と位置付け、推進しています。

平成20年2月に作成した「あおもり環境公共推進基本方針」では、「環境公共」の実施に当たって、農林漁業者をはじめ、地域住民やNPO、企業、行政など多様な主体が共有すべき事項として、3つの方向性、5つの理念、3つの目標を示しています。



「環境公共」の概念



「環境公共」の基本的方向



「環境公共」の基本的方向
 (地域力の再生 (新たな「結い」))

- 「環境公共」の実施を契機とし、公共事業のプロセスに、農林漁業者はもとより、地域の人々などの参加を促進
- 自ら行えることは自ら実施していきることにより、地域力の再生 (新たな「結い」) を実現

強固な農・林・水の連携



- 農業・林業・水産業の各分野の取組を、より強固に連携して実施
- 農・林・水の連携強化により、循環型で持続可能な農林水産業が実現され、安全・安心な食料生産が可能

「環境公共」の基本的方向
(強固な農・林・水の連携)

環境への「配慮」から「保全・再生」へ



- 農林水産業の生産性を高めるため、その基盤を整備しつつ、生物多様性などの観点から環境を保全・再生
- これまでの環境への配慮に加え、可能な限り環境を保全・再生

「環境公共」の基本的方向
(環境への配慮から保全・再生へ)

実施手法《地区毎の手続き・体制》



- 「環境公共」の実施に当たっては、多様な価値観を持つ人々が、事業の各段階に参加できるようなシステムを構築
- 従来の事業化に必要な手続きに加え、事業構想の策定や地区環境公共推進協議会の設立などの新たな手続きや体制を追加

「環境公共」の実施手法

★「環境公共」ホームページ：<https://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

(2) 「環境公共」の取組事例

～ 豊かな地域資源を次世代へ継承する取組 ～

赤石地区（ほ場整備事業、十和田市）



令和2年10月1日、十和田市ではほ場整備事業（R2～R7）を実施中の赤石地区では、関係土地改良区である奥瀬堰土地改良区が地元の小学4年生14名を対象に「十和田湖水たんけんたい2020」と題し、十和田湖や奥入瀬川に関連する施設見学等を実施しました。

児童達は、十和田湖の水利用の歴史や頭首工により奥入瀬川から取水された農業用水がどのような経路でほ場へたどり着くのかなどを学習したほか、頭首工取水口付近で採取した川の水の水質調査も行いました。

奥瀬堰土地改良区では、地域農業の将来を担う子供たちに対し、今後もこのような活動を継続し、豊かな地域資源を次世代に引き継いでいくこととしています。



十和田湖の水利用の学習



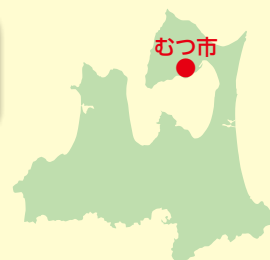
奥瀬堰頭首工の見学



学習した内容を記録

～ 地域住民による施設の維持管理の取組 ～

蛸崎地区（用水路整備事業、むつ市）



むつ市川内町の蛸崎地区（H29～R2）では、約1.3kmの用水路整備を実施しました。地域の農地や施設の維持管理は、蛸崎集落の住民からなる蛸崎地区会が主体となって、令和元年度から「中山間・ふるさと水と土保全対策事業」を活用し、用水路周辺の草刈りや泥上げ等の維持管理のほか、八重桜の植栽活動を実施しています。令和2年度は、高齢化の進展を考慮し、労働力の軽減が図られるよう防草シートを施工しました。

蛸崎地区会では、今後も当該地区の農地・景観等の維持が図られるよう、この取組を継続していくこととしており、県としても引き続き支援していきます。



苗木植栽の様子



植栽完了



泥上げ作業の様子

(3) 「環境公共」の情報発信

青森県の将来を担う子どもたち、消費者であるその親たちを対象に、平成29年度から環境公共推進プロジェクトとして、農・林・水・畜連携のもと、各地域県民局で「食」や「農」に関する体験学習を実施しています。

令和2年度は新型コロナの影響により、西北地域県民局以外はこれまでのバスツアー方式から現地集合・現地解散方式に変更し、規模を大幅に縮小して実施しました。

なお、三八地域県民局（③）については、前日の悪天候により残念ながら中止となりました。



〈R2年度環境公共推進プロジェクト一覧〉

| 番号 | 開催日 | 開催場所 | 参加者 | 番号 | 開催日 | 開催場所 | 参加者 |
|--|----------|------|-----|---|----------|------|-----|
| ① | 10/4(日) | 外ヶ浜町 | 21名 | ② | 9/6(日) | 弘前市 | 24名 |
| 《緑の少年団交流集会》 ・ネイチャーゲーム ・木工体験 ・環境公共学習等  | | | | 《緑の少年団交流集会》 ・森に住む生き物のお話 ・木工体験 ・環境公共学習等  | | | |
| ④ | 9/24(木) | 中泊町 | 25名 | ⑤ | 10/28(水) | 三沢市 | 12名 |
| 《「山川海の恵みに感謝！」水と大地の探検隊》 ・芦野頭首工見学 ・自動給水栓見学 ・山・川・海を繋ぐ水循環の学習 ・漁礁の見学 ・森林学習等  | | | | 《育林作業安全講習会》 ・チェーンソーの安全講習 ・環境公共学習等  | | | |
| ⑥ | 10/29(木) | 七戸町 | 51名 | ⑦ | 11/3(火) | むつ市 | 30名 |
| 《天間林小学校校外学習》 ・天間ダム見学 ・環境公共の学習等  | | | | 《緑の少年団交流集会》 ・森林のお話 ・木工教室 ・環境公共学習等  | | | |
| 合計参加者 163名 | | | | | | | |

(4) 「環境公共」を支える低コスト化技術

●水田地域での高収益作物の生産に向けた低コストな基盤整備モデルの作成(R1～R2)

県では、これまでは場整備事業などの国の補助事業を活用し、高収益作物への転換を可能とする排水改良や農地の大区画化などの基盤整備を推進してきました。

しかし、米需要の減少とともに、後継者・労働力不足が進行している現在、高収益作物の生産拡大による農家所得の向上、さらには農業用機械の導入による効率化・省力化を早急に進める必要性が高まっています。

補助事業による基盤整備の実施は、地区の合意形成などで時間を要することから、今回、生産者自らが畑や樹園地への転換に取り組むことができる基盤整備の低コストモデルを作成し、パンフレットに取りまとめました。

○基盤整備低コストモデル(畑や果樹園に転換するための必要最低限の基盤整備の方法)

転換前の30アールほ場を畦畔除去で60アール区画に拡大した上で、地表・地下の過剰水を排除する溝掘りや傾斜ほ場、心土破碎、機械作業を想定した水路の蓋掛けを設定

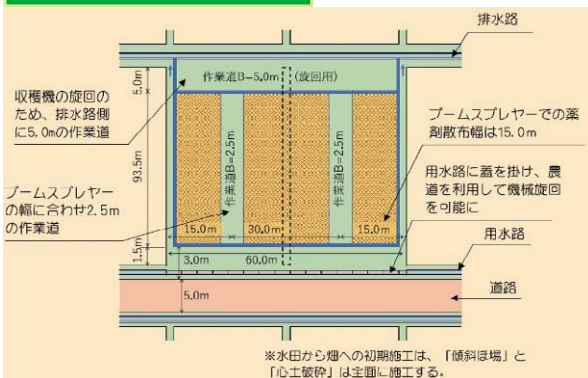
- ・ 1区画30aの水田を60aへ区画拡大
 - ➔ 畦畔除去
- ・ 地表・地中排水を除去する必要最低限の排水対策
 - ➔ 溝掘り(明渠)、傾斜ほ場、心土破碎
- ・ 機械作業を想定した整備
 - ➔ 水路の蓋掛け、作業道の確保

基盤整備低コストモデルの標準工事費(60a当り)

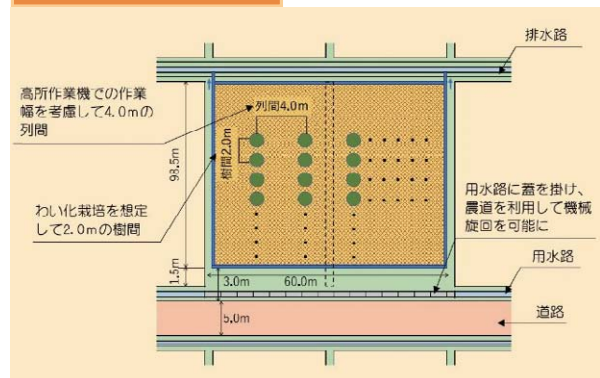
単位：円

| 工種 | 数量 | 単価 | 金額 |
|---------|------|-------|---------|
| 溝掘り(明渠) | 320m | 23 | 7,000 |
| 傾斜ほ場 | 60a | 2,550 | 153,000 |
| 心土破碎 | 60a | 100 | 6,000 |
| 畦畔除去 | 100m | 250 | 25,000 |
| 水路の蓋掛け | 60m | 5,300 | 320,000 |
| 計 | | | 511,000 |

キャベツ畑へ転換



りんご園へ転換



本パンフレットは農村整備課ホームページで公開しています。

★農村整備課ホームページ： https://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kibanseibi_teicostmodel.html